

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 1 「柑橘王国えひめ」を支える果樹産地の更なる発展を目指します

○儲かる果樹農業の確立

【取組】

果樹農業の担い手のモデルとなる「未来型果樹園」を核とした、産地の強化を目的として、

- ① 西日本豪雨災害からの復旧・復興の支援
- ② 未来型果樹園づくりに向けた生産基盤強化のための施設等の整備
- ③ 紅プリンセス等県オリジナル品種の生産支援

【成果】

- ① 復旧園地における早期成園化のための土づくりと防風・防鳥ネットの整備：1地区
- ② 高品質・高収量生産に必要なハウス、果樹棚、防風・防鳥ネット、かん水施設等の整備や、省力・低コスト化のための電動鋏、モノレール等の整備：9地区
(松山市、八幡浜市など)
- ③ 県オリジナル品種に係る高品質・高収量のためのハウス、防風・防鳥ネット、かん水施設の整備：3地区

【関係事業】

- ・未来型果樹産地強化支援事業費：59,922千円
- ・紅プリンセス生産支援事業費：16,923千円



防風・防鳥ネットの整備



ハウスの整備



かん水施設の整備

○儲かる中晩柑の生産拡大や高品質化等による収益性向上

【取組】

- ・産地生産基盤パワーアップ事業（国事業）を活用して、収益性の高い施設中晩柑産地拡大のための施設整備を支援

【成果】

- ・中晩柑ハウスの資材導入：2産地、8件（松山市、今治市）
- ・中晩柑ハウスの施工支援：1産地、6件（松山市）

【関係事業】

- ・かんきつ園地施設化支援事業費：55,380千円
- ・果樹産地整備事業費：8,300千円



農家自主施工による緩傾斜化

○作業の効率化に向けた園地の改良

【取組】

機械化を可能とする園地の緩傾斜化など、生産性の高いモデル園地の整備を進め、再編整備を補完する手法として速やかな普及定着を図る。

【成果】

- ・県内4か所においてモデル園地を整備
(今治市上浦町、松山市山田町、西予市三瓶町、愛南町御荘)
- ・R5年度に小規模園地改良を行った優良なモデル園地において横展開と意識の醸成を図るための研修会を開催（参加者：約30人）

【関係事業】

- ・傾斜園地作業効率化モデル整備事業費：9,180千円



傾斜緩和した園地での研修会

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 1 「柑橘王国えひめ」を支える果樹産地の更なる発展を目指します

〇県オリジナル品種「媛小春」の産地づくり

【取組】

- ① 情報共有と相互研鑽を目的とした「南予の媛小春魅力アップ協議会」を設立し、現地研修会等を開催
- ② 安定生産に向けた着果枝の性質調査や果実品質保持技術を検討
- ③ 認知度向上を目的とした販促イベント等の実施

【成果】

- ① 夏季及び秋季現地研修会（延べ77人参加）を開催し、調査結果の報告及び優良園での栽培状況について意見交換を実施
- ② 結実が多い樹の結果母枝の特徴を確認。12月上旬に収穫し1月末まで貯蔵したところ、試験区で果重の減少に差はなく、カラリング後に貯蔵した区で果皮色が良い傾向
- ③ えひめ愛ある食の市（松山市）、宇和島市産業まつりで一般消費者向けに試食販売を実施。加工品開発に向けて、県内加工事業者と協議を開始し、現在試作中

【関係事業】

- ・「南予の媛小春」魅力アップ事業費：883千円



現地研修会で秋せん定のポイントを学ぶ



イベントで試食を通じて外観と食味の意外性をPR

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 2 水田フル活用の推進により、水田農業の持続的発展を目指します

〇県オリジナル品種「ひめの凜」の導入推進

【取組】

- ・県産米全体の競争力の底上げ、農家所得向上と本県水田農業の振興を図るため、ひめの凜の生産振興や、良食味米生産体制の構築、ブランディングを一体的に実施

【成果】

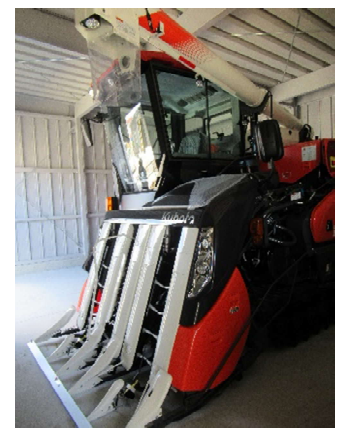
- ・令和7年度認定栽培者：1,489名（1,321ha）
〔令和6年度認定栽培者：993名（1,006ha）〕
- ・共同乾燥施設の整備：2JAで計2施設
- ・首都圏のお米マイスターと連携したフェアや県内外の飲食店を対象としたキャンペーン等を実施

【関係事業】

- ・ひめの凜ブランド力強化事業費：42,350千円



「ひめの凜」試食販売フェア



導入した機械

〇省力化による持続可能な水田農業の推進

【取組】

- ・大規模で安定した農業経営と水田農業の持続的発展を実現するため、水田農業の省力化に必要な収穫機械や共同利用施設等の導入を支援

【成果】

- ・農業機械・施設の整備：5件（コンバイン、トラクター等）

【関係事業】

- ・水田農業競争力強化支援事業費：12,220千円

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 3 主要農作物の種子の安定供給に努めます

○主要農作物の種子の安定供給

【取組】

- ・主要農作物の生産増進を図るため、優良品種の増殖普及と優良品種への更新を促進するとともに、これに必要な原原種ほ場、原種ほ場の設置、採種ほ場の指定、ほ場審査、その他採種管理に対する指導等の実施

【成果】

- ・水稻採種ほ場 213ほ場で計6品種 計36ha
〔あきたこまち、ひめの凜、ヒノヒカリ、しずく媛、松山三井、媛育71号〕
- ・麦採種ほ場 175ほ場で1品種 33ha (ハルヒメボシ)

【関係事業】・優良種子生産体制強化事業費：77千円



栽培講習会

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 4 収益性の向上に向けた野菜の生産体制強化に取り組みます

○儲かる品目の生産拡大や高品質化等による収益性向上

【取組】

- ・野菜等産地の規模拡大や高品質化等に必要な施設・機械等の導入を支援

【成果】

- ・さといもの省力化機械等の導入：6産地、6件
(松山市、今治市、西条市、西予市、東温市、松前町)

【関係事業】

- ・野菜・花き等産地供給力強化支援事業費：18,558千円



毛羽取機



畝立て同時移植機



運搬車



移植機

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 4 収益性の向上に向けた野菜の生産体制強化に取り組めます

○パクチー周年安定生産体制の確立支援

【取組】

- ① 生産者や関係機関との対策会議（2回）を開催（7月、3月）
- ② 情報収集活動として、千葉県先進地を調査（1月）
- ③ 周年安定生産を検討するため、実証ほ（8か所）を設置
- ④ 中予産パクチーの主な出荷先である関西圏等でのPR活動

【成果】

- ①
 - ・産地化への意識統一を行い、栽培講習会や現地巡回により新規栽培者6人を確保
 - ・栽培農家数：21戸〔R5年比：124%〕
- ②
 - ・先進地の周年栽培技術の情報共有により、複数回作付が定着
 - ・栽培面積：133a〔R5年比：102%〕
- ③
 - ・標高別の初夏～秋播き作型を実証、栽培マニュアルの完成により、栽培技術を周知
- ④
 - ・大阪市場の卸、仲卸を対象とした試食やパンフレット配布、アンケート調査の実施により、ブランド力が向上
 - ・都内企業の社員食堂での2メニュー提供により、中予産パクチーの認知度が向上

【関係事業】

- ・パクチー周年安定生産体制確立事業費：1,517千円



パクチー栽培マニュアル



大阪市場でのPR活動



自家育苗した苗の定植



青果流通業者との商談状況



JR大阪駅でのPR販売

○県オリジナル品種「媛かぐや」の産地づくり

【取組】

- ① 産地育成推進会議の開催（2回）
 - ・新規栽培農家の確保や安定生産技術の確立と普及
 - ・加工事業者等と連携した需要創出について協議
 - ・各関係機関での情報共有
- ② 栽培体系の構築
 - ・セル自家育苗技術の導入
 - ・安定生産を目的とした混植栽培の実証ほの設置
 - ・生育状況に応じた現地栽培検討会を開催
- ③ 需要創出
 - ・飲食店、加工業者等実需者の掘り起こし、流通体制の構築
 - ・需要拡大を図るため、管内外の青果流通事業者（14社）にサンプルを提供
 - ・県外流通事例調査、青果でのPR販売による認知度向上

【成果】

- ①
 - ・セル自家育苗農家を確保：3戸（新規）
 - ・管内栽培農家：15戸（新規8戸）、17a〔R5：7戸、6a〕
- ②
 - ・セル苗自家育苗技術の導入による初期成育の旺盛化
 - ・他品種との混植による収量増加を確認
- ③
 - ・JA系統流通の開拓し、実需者2社との商談が成立
 - ・市場での高需要及び高単価の時期を確認、次年度は高単価の需要期での出荷を計画

【関係事業】

- ・「媛かぐや」産地育成事業費：1,134千円

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 5 新たな花きニーズの創出と収益性の向上に向けた花き産地づくりを支援します

○観賞用ユーカリ産地拡大の支援

【取組】

- ① JA、市等の関係機関との生産対策協議会、現地研修会の開催（5月、2月）
- ② 挿し木及び育苗講習会：6回、計79人参加
- ③ 収量及び品質向上を目指した樹形づくりの実証（2か所）
- ④ 水田ほ場における排水性改善技術の実証（2か所）
- ⑤ 新規ユーカリ※の導入検討（2か所）
※品種名：パルブラ、アップルボックス、ポポラス

【成果】

- ① 生産者の自家育苗技術の向上
- ② 株枯れ症状対策技術を確認（対策マニュアルの作成）
- ③ 地域適応性や市場評価を考慮し、有望品種3品種を選定

【関係事業】

- ・観賞用ユーカリ産地拡大事業費：1,491千円



ユーカリ現地研修



株枯れ症状対策マニュアル



現地検討会



プロモーション活動



オブジェの設置

○さくらひめ切り花・鉢物の生産支援

【取組】

- ① 夏季自家育苗を検討するため実証ほ（7か所）を設置
- ② 生産者、市場、関係機関との検討会及び現地研修会（各2回）
- ③ 卒入学式需要に向けた消費者へのイメージアップを目的としたプロモーション活動や東京都のブライダル事業者へのPRを実施

【成果】

- ①
 - ・切り花：夏季自家育苗により、種苗コスト低減と高校卒業式需要に対応
 - ・鉢物：夏季自家育苗（短日夜冷育苗）の有効性を確認
 - ・取組生産者：3人〔R5：2人〕
- ② 市場動向や技術実証内容について、意見交換することができ、実証区では需要期出荷の対応ができたことを確認
- ③ 県内消費者の「さくらひめ」に対する認知度が向上

【関係事業】

- ・さくらひめ産地強化事業費：991千円

○新たな花きニーズの創出

【取組】

- ・県花き関連団体のイベントを、開催時期ごとに「えひめ花いっぱいプロジェクト」と銘打って開催
- ・開催イベントをまとめたPRチラシを作成し、マスメディアへ情報提供（県HPに掲載）
- ・写真を募集し、当選者へ花チケットをプレゼント（応募者：83人）

【成果】

- ・Instagramでの若い世代をターゲットにした情報発信
→フォロワー数※：319人 ※令和6年度末時点
- ・花を活用したオブジェを設置し、県産花きをPR：2会場

【関係事業】

- ・えひめ花いっぱいプロジェクト開催費：1,139千円

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 6 魅力ある畜産ブランドの生産体制の強化に取り組めます

○生産基盤の強化

【取組】

- ・国補助事業や県単補助事業（畜産新技術等導入支援事業費）による施設整備や機械導入、畜産関連既存施設の補改修を推進

【成果】

- ・畜舎の施設整備：0件〔R5：1件、R4：1件〕
- ・機械等の導入：14件〔R5：18件、R4：21件〕
- ・既存施設の補改修：21件〔R5：16件、R4：24件〕

【関係事業】

- ・畜産経営技術指導事業費：3,647千円
- ・畜産新技術等導入支援事業費：21,644千円



牛舎の補改修

○生産体制の強化

【取組】

- ① 生乳生産期間の延長による乳用牛の生涯乳量向上に向け、公共牧場を活用した子牛育成期の管理強化やICT機器を活用した繁殖管理を推進
- ② 愛媛あかね和牛の生産強化に向けて、遺伝子検査等を活用し、子牛の高品質生産体制の構築を推進

【成果】

- ① 公共牧場等で強化育成した頭数：295頭〔R5：316頭〕
- ② 愛媛あかね和牛生産頭数：219頭（目標頭数：240頭）

【関係事業】

- ・乳用牛生涯乳量向上事業費：7,590千円
- ・愛媛あかね和牛産地化支援事業費：7,559千円



ICT機器活用に向けた研修会

○畜産経営の安定化

【取組】

- ① 経営体質の転換に向け、飼料コスト低減や生産性向上などに取り組む畜産農家を支援
- ② 牛肉消費低迷に伴う枝肉価格の低下や長引く飼料・資材価格の高騰により厳しい経営環境にある肥育牛生産者を緊急的に支援

【成果】

- ① 支援農家数：延べ508戸〔R5：429戸、R4：410戸〕
- ② 支援農家数：56戸

【関係事業】

- ・酪農・畜産飼料価格高騰対策緊急支援事業費：318,461千円
- ・酪農・畜産飼料価格高騰対策支援事業費：246,702千円
- ・肥育牛生産者緊急支援事業費：1,195千円



自給飼料生産の取組支援

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 7 産地や農業者の期待に応える試験研究を推進します

○新活力創出試験研究プロジェクトの推進

【取組】

- ・今後の地域間競争に打ち勝ち、持続的に地域を発展させるために、各地域の将来目標を実現する研究テーマを掲げ、農林水産研究所が組織をあげて取り組む当該プロジェクトを実施することにより、目標設定解決型の試験研究を展開し、農林水産業の更なる活性化を推進

【成果】

- ① ブレイクスルーでつかみ取る!! サトイモ・スーパー品種の開発
 - ・加温栽培により育種期間の短縮を可能とする技術を開発
 - ・優良16系統（個重タイプ）を一次選抜
 - ・サトイモ全ゲノムデータ取得と疫病抵抗性評価技術を開発
- ② 未来型かんきつオリジナル品種の開発
 - ・南柑20号について、プロトプラスト精製方法を確立
 - ・未成熟胚からのカルス誘導条件と培養条件を確立
- ③ 全国初！スマホにお知らせ「できるサトイモ栽培」支援システムの開発
 - ・AIを用いてサトイモの葉の状態から、水分ストレス兆候を土壌の画像データから土壌水分状態を判別する手法を開発
- ④ かんきつへの通電処理による高品質果実生産技術開発
 - ・うんしゅうみかん及び愛媛果試第28号（紅まどonna）への通電処理による品質向上効果を評価
- ⑤ 「質の米どころ愛媛」を盤石にする「ひめの凜シリーズ」の開発
 - ・高温耐性遺伝子を持つ3品種と「ひめの凜」の交配を実施
 - ・玄米タンパク質含有率と食味の関係を検証
- ⑥ 愛媛の微生物資源を活用した果樹の新生物的防除技術開発
 - ・県内園地から、病原細菌に抗菌性を持つ内生細菌とバクテリアオフファージを採取
 - ・遺伝子解析や室内試験で抗菌性微生物の特徴を評価

【関係事業】

- ・新活力創出試験研究プロジェクト推進事業費：7,301千円



サトイモの優良系統を選抜



通電処理が生育に与える影響を調査



培地での微生物による抗菌活性の確認

○水稻品種育成加速化技術の開発

【取組】

- ・主要品種の「あきたこまち」の品質が極めて悪く、生産者からは有望品種への切り替え要望が強いことから、品質・食味が良く収量が安定した早生品種の早期育成と普及を目指すため、DNAマーカー育種技術の確立と電子野帳を開発する。

【成果】

- ・高温耐性遺伝子3種と穂いもち耐性遺伝子1種を検出
- ・水稻の生育調査用電子野帳プログラムを試作し、デジタルメジャーやバーコードリーダーとタブレットをBluetoothで連動させ、生育調査データを直ちに保存

【関係事業】

- ・農業試験研究費：31,156千円
(うち水稻品種育成加速化技術開発試験：1,386千円)



バーコードリーダーと二次元コード竹尺でデータを測定・保存

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 7 産地や農業者の期待に応える試験研究を推進します

〇キウイフルーツ花粉安定生産技術の高度化

【取組】

- ・キウイフルーツかいよう病の世界的な流行による、花粉の輸入制限や価格高騰を受け、不安定な輸入花粉に頼らず、自給する取組を支援するため、大規模に生産する技術を開発
(前事業：キウイフルーツ花粉安定生産技術開発試験)
- ・令和3年度までに花粉生産から精製する体制が国内で初めて整ったことから、前事業を昇華し、収穫作業の分散化や花粉収量増大に向けた試験を実施

【成果】

- ・松野町で3戸、18.6 aで栽培を開始し、花粉精製工場を整備
- ・令和4年に0.2kg収穫し、令和5年に受粉試験を実施
- ・令和5年に1.9kg収穫し、令和6年に初販売の予定
- ・Tバー仕立てによる簡易雨よけ施設により10.4a規模拡大
- ・令和6年に2.7kg収穫 生産者1戸増加
- ・樹体付近の局所加温により収穫時期を前進

【関係事業】

- ・キウイフルーツ花粉生産技術高度化試験研究費：1,086千円



松野町キウイ花粉生産者



簡易雨よけ施設による
規模拡大

〇キウイフルーツ生産技術の開発

【取組】

- ・キウイフルーツ生産量日本一の座を堅持することを目指し、異常気象等に起因する生育不良を克服するための安定生産技術を開発

【成果】

- ・湿害に強い台木「バウンティ」を選抜し、水田転換園での現地実証
- ・改植後の生育不良対策として、大苗育苗の技術開発を実施
- ・開花期の多雨対策として、簡易雨よけ栽培を検討し、花腐細菌病の発生軽減効果を確認
- ・雨よけ施設を利用し、夏期異常高温対策として遮光栽培を検討

【関係事業】

- ・果樹試験研究費：35,151千円
(うち異常気象に負けないキウイフルーツの生産技術開発費：1,000千円)



キウイフルーツの簡易
雨よけ栽培により
花腐細菌病の発生を軽減

〇かんきつせん定技術習得システムの開発

【取組】

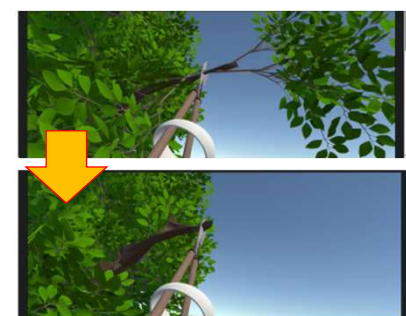
- ・生産者が減少していく中、新規就農者が一人前のせん定技術を習得するため、飛躍的に進歩しているデジタル技術を活用し、せん定技術を習得できる「かんきつせん定シミュレータ」を開発

【成果】

- ・実際に撮影したみかん樹木を用いて3D画像を生成し、幹や枝をせん定ができるように分割しシミュレータを作成、VRゴーグルを利用しバーチャル空間でせん定を行うシステムを構築

【関係事業】

- ・かんきつせん定技術習得システム開発費：1,654千円



3Dモデルでのせん定の様子

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 7 産地や農業者の期待に応える試験研究を推進します

○紅プリンセス高品質化栽培試験

【取組】

- ・紅プリンセス（愛媛果試第48号）栽培における、果皮障害や生理障害、肥培管理や貯蔵条件の課題を解明しスムーズな産地化を後押しする。

【成果】

- ・す上がり軽減技術として樹形がポイントであることを確認
- ・ネックおよびヘソ果の発生には結果母枝の形質が関係、日焼け果対策には下垂着果と伸縮性果実袋の被覆が有効

【関係事業】

- ・果樹試験研究費：35,151千円
（うち紅プリンセス高品質化栽培試験費：2,046千円）



葉で果実が隠れる下垂着果による日焼け果対策

○天敵を利用したアザミウマ防除技術の開発

【取組】

- ・県内の施設栽培‘愛媛果試第28号’に発生するミカンキイロアザミウマは、強度の薬剤抵抗性を獲得し、化学農薬による防除が困難となっていることから、化学農薬以外の手法を組み合わせた防除方法を開発する。

【成果】

- ・天敵であるスワルスキーカブリダニの放飼試験を実施し、実用的な防除効果を確認（販売果率 天敵区：89.4%、無放飼区：53.7%）
- ・化学農薬に気門封鎖剤を混用することで、防除効果が向上

【関係事業】

- ・果樹試験研究費：35,151千円
（うち天敵等を利用したアザミウマ防除技術開発試験費：742千円）



ミカンキイロアザミウマ幼虫

○畜産生産技術等の開発

【取組】

- ・家畜の暑熱対策や飼料価格の高騰対策、効率的・省力的な家畜管理など、畜産農家が抱える課題を解決へ導く技術を開発する

【成果】

- ・養鶏農家の生産コスト低減による体質強化を図るため、脱脂粉乳や水産加工残渣等の養鶏飼料への利用可能性を確認
- ・乳牛の健康維持の簡易化・高度化を図るため、乳牛の健康状態を表す行動指標の作成と、指標を用いた飼養管理技術を検討中
- ・養鶏における飼料コストの低減を図るため、アミノ酸を強化した低タンパク飼料の給与体系を調査中

【関係事業】

- ・畜産試験研究費：8,353千円
- ・低コスト県産養鶏飼料開発事業費：2,400千円
- ・乳牛行動情報指標化技術確立試験費：17,143千円
- ・鶏低タンパク質飼料給与体系確立試験費：6,460千円



水産加工残渣と河内晩柑との混合飼料



鶏の嗜好性試験

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 8 地域に密着した普及指導活動の推進により、
足腰の強いえひめ農業を確立します

〇産地づくりと地域づくりの推進

【取組】

- ① 対象・活動の重点化及び特色ある普及活動の展開、出口戦略を見据えた生産振興を実施
- ② ミドル層での先進技術の実証や流通販売促進の取組を支援
- ③ 流通面から産地の競争力を強化するため、普及指導員が、実需者の消費動向、県産農産物や加工品の流通上の問題点等を調査
- ④ いちご、きゅうり、トマト農家で低コスト環境計測機器の実証データの分析活用など環境制御技術向上に関する研修会を実施

【成果】

- ① 策定した
 - ・産地づくりビジョン：53課題
 - ・地域戦略ビジョン：33課題に取り組み、生産振興を推進
- ②
 - ・先進技術（施設、機械等）の導入：3件
 - ・流通販売促進の支援：6件
- ③
 - ・リアルタイム診断システムの運用上の課題解決
 - ・通信中の高画質画像撮影に対応したシステムの改良を実施
- ④
 - ・モデル農家で環境計測実証：5戸
 - ・環境制御技術向上に関する研修会開催：2回、延べ78人

【関係事業】

- ・普及活動促進費：34,518千円
- ・儲かるモデル産地育成システム確立推進事業費：6,851千円
- ・リアルタイム農業普及指導ネットワーク構築事業費：
13,533千円



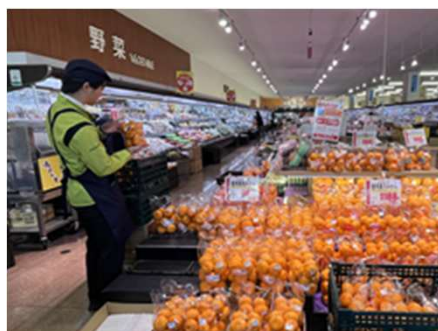
ひめの凜栽培講習会



紅プリンセス栽培講習会



いちご省力栽培
(天敵放飼)に係る現地指導



普及指導員の
首都圏での流通研修



ハウスに設置した
低コスト環境計測機器



リアルタイム診断システム

基本施策 (2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます

施策の展開方向 ② えひめ農業の生産力を拡大します

具体的な推進事項 8 地域に密着した普及指導活動の推進により、
足腰の強いえひめ農業を確立します

○高級菓子用くだもの産地確立に向けた支援

【取組】

- ① 生産体制の整備を支援
 - ・ファクトリーブランド促進協議会の実施支援
 - ・持続的な生産体制の整備
- ② 省力・多収栽培技術（もも、かき、びわ）の確立支援
- ③ 省力・多収栽培のマニュアル作成

【成果】

- ①
 - ・生産供給目標や安定供給対策の協議：全体1回、品目別3回
 - ・新規栽培者：2人を新たに掘り起こした
- ② 加工用くだもの省力・多収技術
 - ・もも：早採り栽培技術の確立
 - ・かき：生産者の高齢化に伴う作業の省力化
 - ・びわ：ネットを利用した無袋栽培による省力化
- ③ くり・もも・かき・びわの年間作業や、実証ほ場等での省力・多収技術実証をビデオカメラ等で撮影

【関係事業】

- ・高級菓子用くだもの産地確立事業費：927千円



ファクトリーブランド
促進協議会



柿の多収剪定指導

○省エネルギー化等による生産性向上に向けた取組支援

【取組】

- ・燃料の価格高騰の影響を受ける施設園芸農家の負担軽減を図るため、国セーフティネット構築事業に加入している農家に対して、燃料経費の一部を支援

【成果】

- ・国セーフティネット構築事業加入者：68戸
(R5年：67戸)

【関係事業】

- ・施設園芸燃料高騰対策支援事業費
：1,245千円（R6年6月補正）
- ・施設園芸燃料高騰対策緊急支援事業費
：4,054千円（R5年12月補正）

令和6事業年度「施設園芸セーフティネット構築事業」加入農家のご案内

省エネ化とセーフティネットで 燃料価格高騰に備えましょう

✓ 国と農業者で協定を行い、燃料価格高騰時に給付金をお支払いします
(自身の積立金の2割を限度に給付)
✓ 給付に使用されなかった積立金は、事業終了後に還付されます
(掛け捨てではありません)

申込要項	対象期間																									
対象期間開始 2か月前までに、県協議会を通じて、施設園芸協会への資料提出が必要で、県協議会へは、申請をもって受理申込みとなります。	10月から翌6月までの期間から選択																									
加入要件 □ 施設園芸農家 3戸以上、又は専業農家 5名以上で構成する農業共同体等 ※ 前年10月1日以上の農家 □ 3年間で燃料使用量を15%以上削減する計画（省エネ計画等推進計画）の作成 □ 目標の立て方は、県農をご覧ください。	対象燃料 施設園芸（野菜、果樹、花きの栽培）の用に供するA重油、灯油、LPガス、LNG 基準単価、積立コース A重油：88.9円/L L Pガス：115.5円/kg 灯油：94.2円/L L N G：58.2円/m ³																									
積立単価 積立単価×年間燃料購入予定数量×1/2 (例) A重油を年間10,000L購入予定の方が130%コースに申し込む場合 26.7×10,000×1/2=133,500円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>積立コース</th> <th>A重油</th> <th>灯油</th> <th>L Pガス</th> <th>L N G</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>115%</td> <td>13.3</td> <td>14.1</td> <td>17.3</td> <td>8.7</td> </tr> <tr> <td>130%</td> <td>26.7</td> <td>28.3</td> <td>34.7</td> <td>17.5</td> </tr> <tr> <td>150%</td> <td>44.5</td> <td>47.1</td> <td>57.8</td> <td>29.1</td> </tr> <tr> <td>170%</td> <td>62.2</td> <td>65.9</td> <td>80.9</td> <td>40.7</td> </tr> </tbody> </table>	積立コース	A重油	灯油	L Pガス	L N G	115%	13.3	14.1	17.3	8.7	130%	26.7	28.3	34.7	17.5	150%	44.5	47.1	57.8	29.1	170%	62.2	65.9	80.9	40.7
積立コース	A重油	灯油	L Pガス	L N G																						
115%	13.3	14.1	17.3	8.7																						
130%	26.7	28.3	34.7	17.5																						
150%	44.5	47.1	57.8	29.1																						
170%	62.2	65.9	80.9	40.7																						

補填金＝積立単価×1×当月燃料購入数量×70%※2
補填単価は、積立コースにかかわらず、同様です
※1 補填単価＝各月の指標価格－変動基準価格
※2 価格急騰時には、100%に引き上げられます。

国セーフティネット 構築事業パンフレット



導入したペレット化装置

○国内肥料資源利用拡大への支援

【取組】

地域内の未利用資源である下水汚泥や食品残渣等を原料とした「菌体りん酸肥料」のペレット状肥料を増産するため、肥料製造建屋改修工事とペレット化設備の導入支援を実施

【成果】

生産者が使いやすいペレット状の菌体りん酸肥料の供給量が増加し、地域内の未利用資源の利用が拡大

【関係事業】

- ・国内肥料資源利用拡大対策事業費：28,352千円